

# 言葉とじっくり向き合うことで 「読む楽しさ」の楽しさを 感じさせる授業を目ざして

新しい指導を考える会

## 1 はじめに

一年生の一学期は、ひらがなの習得や会話を中心にした伝え合う学習など、「国語」という教科との出会いを楽しむ時期である。教科書における文学教材も登場人物に同化しやすいものが多く、子どもたちは、リズムカルな節をつけて読んだり、主人公になりきって動作化したりすることを楽しんでいる。このような実態から、この時期の「読むこと」に関する指導は、文章を楽しく読むことや内容の大体をつかむことがねらいとなる。

しかし、「楽しさ」や「大体をつかむ」ばかりを気にするあまり、「あれは難しい」とか「これはまだ早い」といつて、「読むこと」の学習を音読や動作化のみで済ませるわけにはいかない。国語力の確かな向上を目ざすならば、入門期であることは配慮するが、むしろ、好奇心旺盛な子どもたちが、文章を読むことの本来の楽しさを実感できる学習展開を工夫すべきであろう。

本実践では、入門期における文学教材の指導で大切にしたい三つの学習を取り入れることにした。

りする場合も予想される。発言した子どもを「いいよ、よく考えたね。」「がんばったね。」と賞賛する段階も必要だが、読むことに慣れてきた六月であることを考えると、子どもたちが「ここに、こう書いてあるから!」と言えるような、叙述に即した読みを指導する段階に少しずつねらいを移していきたいものである。

そこで、指導にあたっては、登場人物の気持ちを想像させるときに、「登場人物の気持ちがわかる表現はどこか?」という趣旨の発問をし、子どもたちが文章とじっくり向き合えるような学習展開を目ざす。

### 〈授業風景1 音読を工夫しているよ〉

- T ○○くんは「おむすび ころりん すつとんとん」の読み方を工夫したね。みんなの前で読んでください。
- C1 (P59L1~P60L4を音読)
- C2 ○○くんは、「おむすび ころりん すつとんとん…」のころを小さい声で読んでね。
- T ○○くんはどうして小さい声で読んだの?
- C1 遠くの方から声がするよな感じがしました。
- T 教科書に理由になる文章があるか、みんなまで探してみよう。
- C3 「のぞいて みたが まつくらで、」と書いてある。
- C4 「みみを あてたら きこえたよ。」と書いてある。
- C5 そうか。まつくらな穴の奥で聞こえたから小さく聞こえるってことか。
- T では、「おむすび ころりん すつとんとん…」は、全部

- ① 叙述に即して読むことの大切さにふれる  
② 「登場人物の気持ち」を文章で書き表す  
③ 言葉のもつ意味を大切にしながら読む

## 2 実践

### ◎「おむすび ころりん」の実践(一上)

#### (1) 教材について

「おむすび ころりん」は、子どもたちにとっては「はなのみち」に続く二つめの文学教材である。光村図書 of 教科書では、長年にわたり一年生の一学期の教材として掲載されており、昔話に込められた人々の心と日本語の言葉の響きを堪能できる入門期の文学教材として親しまれてきた。思わず声に出したくなる七五調の語りや難しい言葉がほとんどない文章は、楽しく読んだり体を動かしたりしているうちに展開や情景を想像することができる。また、多くの擬態語が使われているため、子どもたちが様子を想像しやすく、楽しみながら叙述に即した読みができる教材といえる。

#### (2) 指導の工夫

##### ① 叙述に即して読むことの大切さにふれる

入門期の子どもたちは、文章や挿絵からいろいろな情景や登場人物の心情を想像することができる。しかし、それらは漠然としたものであることが多く、中には明らかに読み誤っていた

小さい声で読めばいいのかな?

- C6 「おじいさん ころりん すつとんとん…」は、「ねずみの おうちに とびこんだ。」と書いてある次だから、大きく聞こえると思うよ。
- T ちゃんと本文に書いてあることから考えたね。

#### 【評価】

音読の工夫を叙述をもとにして考えているかどうか評価のカギをにぎる。C1だけでなく、教科書に書いてあることを理由に挙げることできたC2~C6も、「めあてを達成している」とする。

##### ② 「登場人物の気持ち」を文章で書き表す

ひらがなを学習したばかりの子どもたちは、覚えた文字を使いたがる。「書くこと」の領域で、口頭作文や一行作文などで書く経験を積んでいるが、「読むこと」の領域でも、積極的に書く学習を仕組めるはずである。

しかし、いきなり「おじいさんの気持ちを書きましよう。」と投げかけられても子どもたちは困惑するだけだし、かえって書くことが嫌になってしまう危険性もある。

そこで、指導にあたっては、登場人物の気持ちを五つの「表情カード」から選ばせ、その表情でどんなことを言いそうかを短い言葉で書かせた。これは、「頭の中で考えること」から「書くこと」の間にスモールステップを作ることをねらったものであり、教師にとっては子どもたちが各場面をどのように読んでいるのかを評価する資料になる。

実践提案 1

実践提案 2

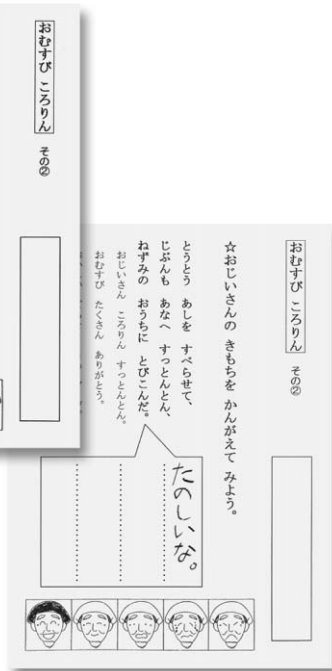
〈授業風景2 おじいさんの気持ちを考えよう〉

□の場面(教科書P60L5~P63L2)

- T 「ねずみの おうちに とびこんだ。」ときのおじいさんの  
 気持ちは、五つの顔の中のどれでしょう。そして、おじい  
 さんはどんなことを言ったか考えてみよう。
- C7 (大笑い顔を選び) 楽しいな。  
 C8 (びつくり顔を選び) びっくりしたよ。  
 C9 (泣き顔を選び) 怖かったよ。  
 T C10 (怒り顔を選び) なんで穴があいてるの。  
 T C10 C9 C8 C7  
 T いろいろな考えが出ましたね。友達のことを聞いて、何か意  
 見がありますか。  
 C7 すべり台みたいで楽しかったと思う。  
 C9 真つ暗な穴に入っていくんだよ。びっくりだよ。  
 C8 足をすべらせたんだから、恐かったと思うな。  
 T C10 穴に落ちたんだから、頭にくると思うな。  
 T いろんな考えが出ましたね。みんな「はなマル」になるか、  
 もう少しだけじっくり読んでみましょうね。

【評価】  
 自分の考えをしっかりと決めて、簡単な文章で書くことが  
 できれば「めあてを達成している」とする。ただし、C10は  
 読み間違いであり、C8とC9についてはそう読めるかもしれ  
 ないが、もっと大事な部分に気づけることを期待し、授業  
 風景3に続く。

- T おじいさんは、どうやら足をすべらせて落ちたようだね。  
 C11 だったら、先生は、教科書に「ねずみの おうちに おち  
 ちゃった。」と書いてあってもいいと思うな。みんなはど  
 う思う?  
 T C11  
 T そうですね。おじいさんは落ちたもんね。  
 C12 どちらも同じ意味になるかな?  
 T 「おちちゃった」だと、間違えて落ちてしまった感じ。で  
 も、「とびこんだ」だと、おじいさんがとても楽しそうな  
 感じがするな。  
 C13 「とびこんだ」って書いてあると、自分から穴に入る感じ  
 がある。おじいさんは、穴に入りたくなかったと思う。  
 C14 私、水泳で飛び込みをするけど、「とびこんだ」の方が  
 「いくぞー!」って感じだよ。  
 T 「ねずみの おうちに とびこんだ」ときのおじいさんが  
 見えてきそうだね。  
 C10 さっきは、怒っていると思ったけど、怒ってはいないと思  
 います。  
 T 言葉に注意して考えてみると、見えてくるものがあるんだ  
 ね。言葉って大切だね。



③言葉のもつ意味を大切にしながら読む

文学教材では、作者は使う言葉一つ一つに細心の注意をは  
 らっている。確かに、読み手に間違った解釈をされるの  
 は避けたいし、かといって読み手一人ひとりに自分の作品のイ  
 メージを伝え歩くわけにはいかない。必然的に作者自身が創り  
 上げた世界を正確に表現する言葉を選ぶことになり、これが最  
 も難しい部分の一つである。

これからさまざまな本と出会う子どもたちには、こうして生  
 まれた作者の言葉をきちんと受け止め、物語の世界を豊かに想  
 像することが出来る読み手になってくれることを望む。

そこで、指導にあたっては、おじいさんの気持ちが表れてい  
 る言葉を意図的に抽出し、その言葉がおじいさんの気持ちを想

【評価】  
 二つの言葉を比べ、作者が「とびこんだ」という言葉を  
 使った意図に迫ることができたら「めあてを達成している」  
 とする。子どもたちが、言葉のもつ意味をじっくり考えた  
 り、日常の体験と結びつけて言葉の幅を広げていったりす  
 る姿を期待する。

3 おわりに

本実践を行った六月は、子どもたちの個人差はとても大き  
 かった。ある程度長い文章も難なく読める子どももいれば、今  
 回の「おむすびころりん」が初めての長い文章となる子ども  
 もいるのが現実である。本実践のような、言葉を大切にしながら  
 楽しく音読したり、謎解き感覚で言葉とじっくり向き合っ  
 て読んだりする学習を積み重ねること、一人ひとりの子どもに  
 文章を読むことの本当の楽しさを実感させられる国語教室を目  
 ざしていきたい。